

扁桃炎患者さんへのご案内:溶連菌検査について

いつも当院をご利用いただき、ありがとうございます。
この度、扁桃炎の症状が見られる方に
「溶連菌検査」の意義と必要性について説明いたします。

1. 扁桃炎の原因について

扁桃炎は、喉の奥にある扁桃が炎症を起こし、腫れや痛み、発熱を引き起こす状態です。扁桃炎の原因には、以下のような感染症が多く含まれます。

- 細菌性の扁桃炎:A群溶血性レンサ球菌(溶連菌)などの細菌が原因で、抗生物質治療が有効です。特に溶連菌による感染は、適切な治療をしないと急性糸球体腎炎やリウマチ熱などの合併症を引き起こすことがあります。
- ウイルス性の扁桃炎:アデノウイルスやエプスタイン・バーウイルス(EBウイルス)など、さまざまなウイルスが原因で発症することがあります。ウイルス性の場合、抗生物質は効果がなく、対症療法が基本となります。

扁桃炎の原因が細菌性かウイルス性かによって治療方法が異なるため、原因を確認するための検査が重要となります。

2. 溶連菌感染の確認が重要な理由

扁桃炎が溶連菌によるものかを確かめることは、治療のために非常に重要です。以下の理由から溶連菌の有無を確認することが推奨されています。

- 適切な治療の選択:溶連菌が原因の場合、抗生物質治療が有効です。抗生物質を適切に服用することで、症状を早く改善することが期待できます。
- 合併症の予防:溶連菌感染を放置すると、急性糸球体腎炎やリウマチ熱といった合併症のリスクが高まることがあります。早期の検査と治療はこれらの合併症を予防するためにも重要です。

3. 検査方法について

溶連菌検査は、喉の奥の腫れている扁桃部分を綿棒でこすり、検体を採取する方法です。採取後5分ほどで結果が判明します。この迅速な検査により、治療方針の早期決定が可能です。

4. CENTORスコアについて

溶連菌検査の必要性を評価するための指標として、以下の「CENTORスコア」も参考にしています。このスコアは、次の5項目に基づいて点数をつけ、合計点数が高いほど溶連菌感染の可能性が高いとされています。

1. 発熱(38℃以上):1点
2. 咳の欠如(咳がない場合):1点
3. 扁桃の腫れや白苔:1点
4. 頸部リンパ節の圧痛:1点
5. 年齢:
 - 3～14歳:1点
 - 15～44歳:0点
 - 45歳以上:-1点

スコアの合計によって、溶連菌感染の可能性を次のように判断します。

- 0～1点:8～14% 溶連菌感染の可能性は低く、検査は推奨されません。
- 2～3点:23～37% 溶連菌感染の可能性が中等度であり、検査をお勧めします。
- 4点以上:55% 溶連菌感染の可能性が高く、検査を必要です。

5. 検査結果に基づく対応

検査で溶連菌が確認された場合、抗生物質による治療を開始します。検査結果に基づく治療を行うことで、早期回復と合併症の予防につながります。

溶連菌検査についてご不明な点がございましたら、
どうぞ遠慮なく医師またはスタッフにご相談ください。
正確な診断と適切な治療で、早いご回復をお祈りしております。

一ノ割駅前休日診療所
院長 大西剛史

TEL 048-795-4799